



お出かけ前の点検



点検箇所

■ 作業点検と高速走行前の点検

事故を未然に防ぐには、車の状態をいつもよく知っておくことが大切です。お出かけ前の作業点検は毎日欠かさず行なってください。

また高速で走るときは車に大きな負担がかかります。高速走行(80km/h以上)の予定のある場合には作業点検のときに、青字の項目も特に念入りに点検してください。

点検項目を次に示します。

黒字の項目は毎日点検する項目、青字の項目は、高速走行前に点検する項目です。

なお、「エンジン・オイルの量」は青字の項目ですが、毎日の作業点検時に点検してください。

※印については、番号順に次の頁に詳しく説明してあります。

■ 点検は次の順序で実施してください。

1 前日の異常箇所

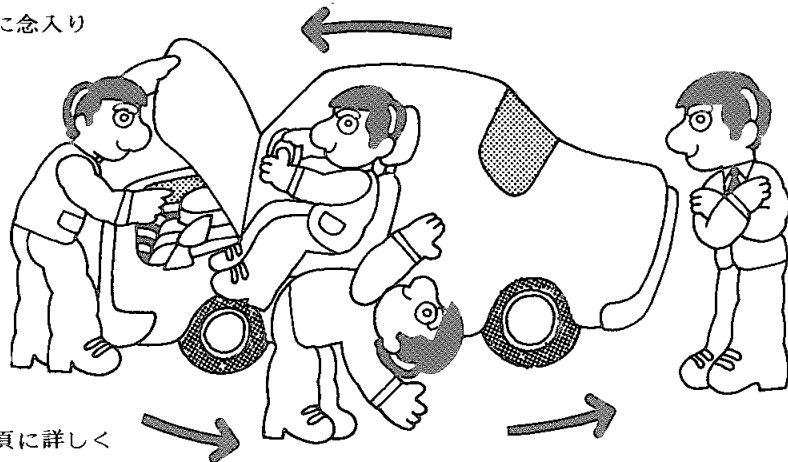
2 エンジン・フードを開けて

- ブレーキ・フルードの量 ※①
- バッテリーの液量
- エンジン・オイルの量 ※②
- ファン・ベルトの張り具合 ※③

- 冷却水の量 ※④
- ラジエータ・キャップの取り付け状態(ウインド・ウォッシャー液の量も見てください)

3 運転席に座ってエンジンを始動して

- 燃料計の作動
- 燃料は十分か
- 電流計、油圧計の作動または、警告灯の点滅具合



合い

- ターン・シグナル・ランプの点滅
- ワイパー、ホーンの作動
- リヤ・ビュー・ミラーの写影
- ハンドルの遊び・ガタ ※⑤
- ブレーキ・ペダルの踏み残り代 ※⑥
- パーキング・ブレーキの引き代 ※⑦
- ドア・ロックの具合
- セーフティ・ベルトの損傷、取り付け状態

4 車の前から

- ランプ類の点検、および汚れ、損傷 ※⑧
- ナンバー・プレートの汚れ、損傷 灯
- タイヤの空気圧、亀裂、損傷、異常摩耗 ※⑨
- タイヤに金属片、異物がないこと、溝の深さは1.6mm以上であること。 ※⑩
- 車が傾むいていないこと。

5 車の下をのぞいて

- 冷却水、オイル漏れ点検

6 車の後から

- ランプ類の点検および、汚れ、損傷 ※⑪
- ナンバー・プレートの汚れ、損傷
- 排気ガスの色 ※⑫
- タイヤの空気圧、亀裂、損傷、異常摩耗 ※⑬
- タイヤに金属片、異物がないこと、溝の深さは1.6mm以上であること。 ※⑭
- 反射器の汚れ、損傷
- 車が傾むいていないこと。

7 徐行しながら

- 水温計・速度計の作動
- ハンドルの重さ、振れ、取られ
- ブレーキの効き、片効き

点検のしかた

①ブレーキ・フルードの量

リザーブ・タンクの上段段付き部までフルードがあるか調べます。

レベル以下に減ったときは補給が必要です。

②バッテリー液の量

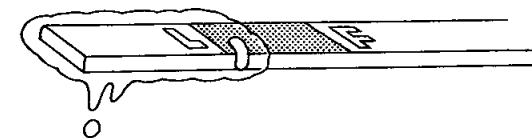
バッテリーの中の電解液は使っているうちに蒸発して減ります。

バッテリー・ケースは半透明になっていますので液量は外から点検できます。液面がUPPER LEVELとLOWER LEVERの間にあればよく、少ないときは補給が必要です。

③エンジン・オイルの量

レベル・ゲージを抜いて、先端をきれいにふき、差し込んでから再び抜いてFとLの間にオイルがあるかを調べます。

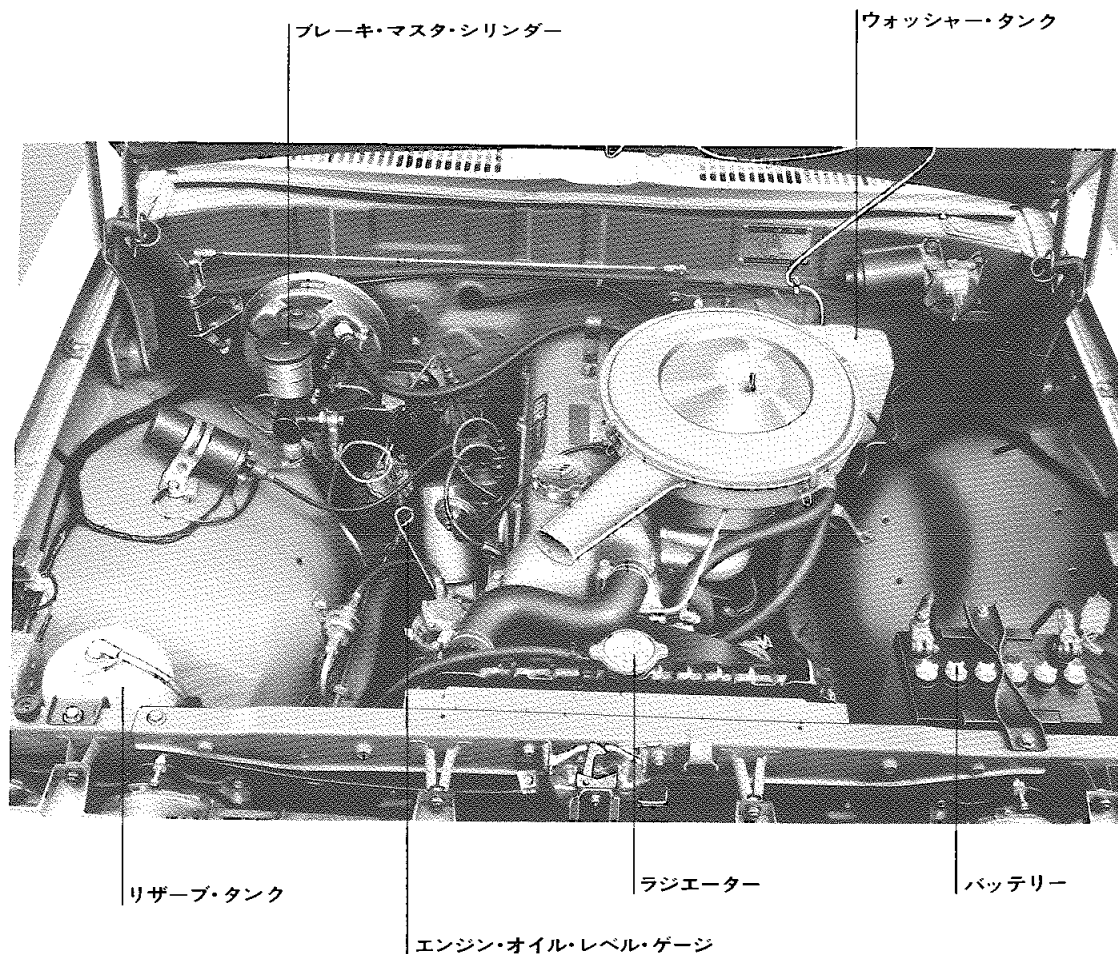
L以下の場合、補給が必要ですが、F以上には入れないでください。



★注意

1. 点検するときは、車を水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。

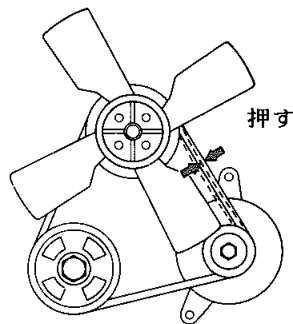
無断複製禁止



2. オイル量はエンジン始動前かエンジンを止めてから少なくとも3分以上たってから点検してください。そうでないと、オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

④ファン・ベルトの張り具合

図のように押さえて、たわみ量を点検します。また亀裂やはがれがないかを調べます。



エンジン型式	たわみ量
6 R 8 R	8 ~ 13 mm
M	13 ~ 20 mm

(押す力を10kgとして)

⑤冷却水の量

冷却水がリザーブ・タンクのレベルのLOWからFULLの間にあるかを調べます。

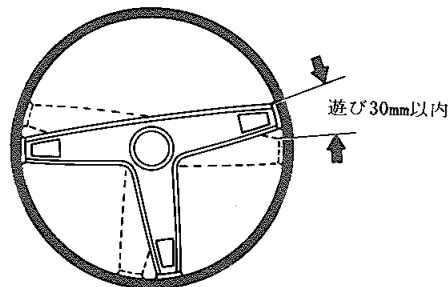
ラジエーターには、リザーブ・タンクが付いており、ラジエーター内の冷却水が少なくなると、リザーブ・タンクから自動的に補給されます。

★注意

レベルのFULL以上、冷却水を入れる必要はありません。ラジエーター本体のキャップは通常はあけないでください。

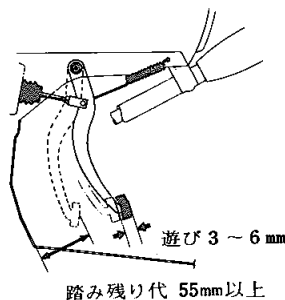
⑥ハンドルの遊び

ハンドルを軽く左右に動かした時の遊びを調べます。



⑦ブレーキ・ペダルの踏み残り代

ペダルを踏んで遊びと踏み残り代を調べます。



⑧パーキング・ブレーキ・レバーの引き代

8~13ノッチの引き代があるかを調べます。

ノッチとは、パーキング・ブレーキ・レバーにあるギザギザ状のものをいい、これを引くとカチカチ音がしますが、このカチという音が1ノッチに、相当します。

⑨ランプ類の点検

次のランプが点灯するかを点検し、汚れや、損傷があるかを調べます。

- ヘッド・ランプ
- ハザード・ウォーニング・ランプ
- パーキング・ランプ
- スモール・ランプ
- ストップ・ランプ
- テール・ランプ
- ナンバー・プレート・ランプ
- メーター・パイロット・ランプ
- ルーム・ランプ

エンジン・スイッチをONにして

- ターン・シグナル・ランプ
- バック・アップ・ランプ

⑩タイヤ空気圧

タイヤの空気圧が適正であるかを次の方法で調べます。

1. 外観から判断する目安はつぎのとおりです。



過大 適正 過小

2. タイヤ・プレッシャー・ゲージを使う場合バルブ・キャップをはずして、ゲージを空気が漏らないように、バルブに押しつけます。目もり板がとびだした後離して目盛りを読みます。測定後空気が漏れないことをたしかめて、キャップをはめます。

標準空気圧

	普通走行時	高速走行時
前 輪	1.6kg/cm ²	1.9kg/cm ²
後 輪	1.6kg/cm ²	1.9kg/cm ²

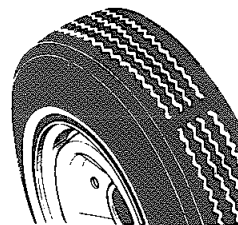
タイヤの標準空気圧表が運転席ドアの後部に張つてあります。

★注意

1. スペア・タイヤの空気圧も調べてください。
2. 高速走行でのタイヤの空気圧は少し高めになります。低いとパンクを起しやすく危険です。

⑪タイヤの溝の深さ

安全走行表示（溝の深さが1.6mm）があらわれたらタイヤを早目に取り替えましょう。



溝が浅くなるとすべり
やすくなり危険です。

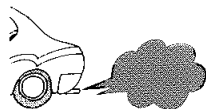
⑫チューブレス・タイヤの使用上の注意

1. 空気圧が極端に少ないとき、またはリムが変形されたときなどは、タイヤとリムの密着が悪くなり空気がもれるので特にご注意ください。
2. パンクの修理について
パンクしたときは、チューブ入り・タイヤと修理方法がちがいますので、確実に修理のできる工場で行なってください。

⑬排気ガスの色

無色又は薄青色……正常

黒色……混合気が濃すぎるための不完全燃焼です。ただし、チョークがきいているときは異常ではありません。



白色……エンジン・オイルが燃えています。ただし、気温の低い場合は水蒸気で白く見えることがあります。



仕業点検で異常が認められた時は、あなたの車の取り扱い販売店のサービス工場へ